

平成 29 年度 小平市 地域型地域ケア会議 実績報告（年間）

1	会議種別 ・担当包括	月	検討内容	参加機関	開催結果
	□個別課題 ■地域課題 けやきの郷	5 月	高齢化が進む中、住み慣れた町で安心して暮らしていくために地域で何ができるのか。地域の現状と今後の課題について、地域の方々との意見交換を通し、高齢者の方を包括的に支援する体制づくり等の構築を目指し、開催する。	民生委員児童委員 4 名、自治会長・役員 5 名、地域包括支援センターけやきの郷 4 名	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度初めてであり、新しい自治会長や民生委員児童委員と地域包括支援センター職員等で顔合わせと、地域の情報共有ができた。 ・地域包括ケアシステムや生活支援体制整備事業について説明させていただき、これからも安心して暮らせる地域づくりを行っていくことを共有できた。
			主な発言		
			<ul style="list-style-type: none"> ・新しくセイユウが出来るが、説明会が 1 回きりで詳しいことが分からない。6：30～22：45 まで開くようだが、通学の時間と重なり事故が起きないか懸念している。小学校などと連携を取りながら今後また話し合いをしたいと思っている。 ・自治会に入っている世帯は一人暮らしかどうかなど把握できるが、入っていない世帯は分からない。加入率 40 パーセントくらいである。 ・自治会費が年間 4000 円と高いのも加入率に影響しているか。社協や赤十字への寄付額を減らしたり、新年会などの費用を抑えたりして会費を下げたいと思う。 ・会員は昔からの家だけに限っている。年間行事が祭りや盆踊り、ゴミ拾いなど色々あるが大体皆さん把握し参加されている。高齢化は進んでいるが、2 世帯などで同居している方がほとんどなので問題などは挙がってこない。困りごとなど家の中で解消しているようだが、話し合う機会をもった方が良いのか検討中。 ・自治会の中は BBQ をやったり月 1 回の清掃を行ったりまとまっているが、2 年前に侵入盗があり何軒か被害が出ている。 ・30 世帯でこじんまりとまとまっている。男性が地域に帰ってきたり、2 世帯の家が多いので問題は出てきていない。 ・自治会で夜回りをやるようになり、その中で話をしたりする。一人暮らしの方に声はかけずとも様子をみたりしている。 		

			<ul style="list-style-type: none">・自治会で話し合い、電気のブレーカーに取り付けると地震の時に自動でブレーカーが落ちて火事を防止できる機器を自治会内全戸に配った。・自治会の総会に民生委員を呼んでくれるので、そこで情報交換ができています。・一人暮らしの高齢者宅を回ったらご近所トラブルを抱えていた。話し合いができればよいが、一人だと立場が弱いと泣き寝入りとなってしまうている。・都営住宅は毎月一斉清掃があり、出ないと罰金 2000 円とられる。断るにも診断書が必要。民生委員にその相談があったり、騒音の相談もあったりする。かと思えば一人暮らし宅に訪問しても「大丈夫」と断られたり、認知症の方で夜中に騒いでいて家族に連絡をとっても縁が切れており放っておいてと言われたりする。自助、互助と言ってもどうしたら出来るのか考えさせられる。・高齢者は地域で増えていると実感する。生活支援コーディネーターができて心強い。・自治会が無いところ、加入していない世帯に情報が行き渡っていない。まだ地域包括支援センターを知らない方もいる。・地域包括ケアシステム構築の為、生活支援コーディネーターとしてが包括に配置された。地域の情報を共有しながら、皆様と一緒に安心して暮らせる地域づくりを行ってきたい。・8月から民生委員児童委員による75歳以上高齢者の全戸訪問が始まる。様々な問題が出てくる可能性があるなので、必要時には包括も一緒に連携させて頂きたい。・介護保険や地域づくりに関する説明、認知症サポーター養成講座など地域にご説明に伺っている。いつでも包括にお声掛け頂きたい。		
	会議種別 ・担当包括	月	検討内容	参加機関	開催結果
2	<input type="checkbox"/> 個別課題 <input checked="" type="checkbox"/> 地域課題 けやきの郷 小川ホーム	7月	～高齢者が安心して生活できる地域づくり～ ・地域で人と人が支え合っていく為には、まずは顔の見える関係作りが大切である。 ・今回、平成 29 年 3 月の改正道路交通法について理解を深め、またその際の認知症の検査の実態を共有し、認知症の疑いのある高齢者ドライバーの現状と困りごとについて話し合うことを目的とし開催する。	民生委員児童委員 2 名 富士見町自治会 会長 富寿美老人会 会長 介護予防見守りボランティア 1 名 新東京自動車教習所職員 1 名 小平警察署交通課 1 名 国立精神・神経医療研究センター病院 1 名 緑成会病院 理学療法士 2 名 小平市高齢者支援課地域支援課 2 名 小川ホーム居宅介護支援事業所 1 名 けやきの郷居宅介護支援事業所 1 名 認知症地域支援推進員 1 名 地域包括支援センター中央センター1 名 地域包括支援センター小川ホーム 3 名 地域包括支援センターけやきの郷 3 名	<ul style="list-style-type: none">・顔の見えるネットワークづくりの必要性が確認できた。・高齢者から運転免許を取りあげることが目的ではなく、高齢者が安心して生活できるようにするには何が出来るか考えることが柱であることの共有できた。・免許を返納しても安心して生活できる条件整備の必要ということが共有できた。

			<p>主な発言</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市内高齢者の事故は全体の 38%で、内訳は高齢ドライバーの事故というよりも歩行中、自転車に乗車中が多く、自転車での事故が最も多い。ちなみに高齢者の次に多いのは子どもの事故で、今年 1 月の調査では小平市は子どもの事故がワースト 1 だった。 ・免許証の返納も窓口で受けている限りでは「身分証の代わりに更新していただけたから」「もう乗らないから」とスムーズである印象。ただ、一晩に一人はいなくなったとか迷い人がいるとかの 110 番が必ず入る状況ではある。 ・ご家族から免許を取り上げて欲しいという相談もあるが、行って説得することはできるが取り上げることはできない、本人の意思がないと返納出来ない。 ・道路交通法が変わり、今年の 3 月 12 日から施行された。大きな変更は 75 歳以上の方の講習内容と、75 歳以上の方が違反〈基準行為〉をした場合の流れ。認知機能検査で「1 分類」になると医師の診断書の提出が必要。 ・教習所としては高齢者の免許を取り消そうとは思っていない。これから安全運転をしてもらうためにはどうしたらよいか、何が足りないかを支援していく姿勢は変えていない。 ・自主返納については免許の有効期間内である必要があり、免許が切れてから半年間は手続きをすれば更新が可能なので、返納の為に更新する方もいる。費用もかなりかかるので、切れてから半年間は返納できるようにしてもらいたいと働きかけているところである。 ・認知症疾患医療センターの認知症の診断については 1 カ月 300 件ほどの受診があり、毎月 40 件くらいが新規。神経内科と精神科の医師が担当しており、完全予約制。待ちは平均 3 週間ほど。病院としては診断書の発行だけというのは原則断らせてもらっており、治療や通院を前提としている。 ・高齢ドライバーの免許に関する受診については、望んで受診している訳ではないので受付でトラブルになることが多い。基本的には 3～4 回受診してもらい、診断書を作成する。予約に 3 週間、その後週 1 回の受診を 3～4 回、書類作成に 2 週間かかるので、それだけで 2 ヶ月半ほどかかり提出期限の 2 ヶ月に間に合わない状況。嫌々受診してきている上に認知症と診断すれば免許も取り消されるので、病院に対するマイナスイメージとなりその後の受診につながらず問題ではないかと思っている。 ・病院のリハビリで関わっていて、運転が危ない方は国立障害者リハビリテーションセンターに運転リハビリがあるので紹介することもある（障害の方や働いている方など）。外来ではスタッフにより「そろそろやめてはどうか」と声掛けすることもある。身体状況を見てケアマネに情報提供することもある。 ・80 歳の運転者で、妻のサロンの送迎をしていた。アルツハイマーで要介護 2 となり、最終的には次男が車を取り上げた。その後、デイサービスなど車以外のものに関心をむけられるよう関係者や家族から働きかけた。運転をやめることで喪失感を感じる方も多いようなので、その対策も大切だと思う。 ・免許を返納して、その後の交通手段も問題が付きまとう。タクシー券が出るところもあるようだが、そうしたり、バス路線を見直したりしてほしい。 ・小平市は免許の返納特典が何もない。東京都の取り組みだけである。これも文化施設に興味がない人には特典にならない。杉並区は 5000 円分のクオカードをくれている。そこまでは言わないが、行政で少しは何かしてほしい。そうすれば、返納ももっと促しやすい。 ・返納しても安心して生活できる条件整備が重要だと思う。
--	--	--	---

			・免許の期限が切れると自主返納ができず経歴証明書ももらえないので、その場合は市役所のマイナンバーカードなど使ってみてほしい。		
	会議種別 ・担当包括	月	検討内容	参加機関	開催結果
3	<input type="checkbox"/> 個別課題 <input checked="" type="checkbox"/> 地域課題 けやきの郷	7月	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢化が進む中、住み慣れたで安心して暮らしていくために地域で何ができるのか。 ・地域の現状と今後の課題について、地域の方々と包括との意見交換を通し、高齢者の方を包括的に支援する体制づくり等の構築を目指す。 	民生委員児童委員 4 名 自治会長 2 名 地域包括支援センターけやきの郷 3 名	<ul style="list-style-type: none"> ・民生委員や自治会長、包括職員で直接意見交換することにより、情報の共有と顔の見える関係を構築することができた。 ・地域包括ケアシステムや生活支援体制整備事業について説明をし、地域づくりについての意見を頂くことが出来た。
			主な発言		
			<ul style="list-style-type: none"> ・自治会がない地域の方たちにどのように接して行ったらよいのか常々悩みの種である。 ・アパートが増えてきて、世帯の把握が難しい。模索中である。 ・全戸配布された「高齢者が住みやすい地域づくりに取り組みます」説明を聞いておおむね内容について理解したが、地域の人に対して、非常に説明のしづらい制度であると思った。 ・必要な人にサービスが行き届かなくなるということがあるのではないかと心配になった。 ・地域の実情に合わせるということは良いが、住む地域によって差が出てくるのが心配。 ・まだ始まったばかりで、問題が多すぎるが、夢物語にならないように、包括も頑張ってもらいたい。協力は惜しまない。 ・従来のサービスを受けることが出来なくなればよいと思う。その方々のニーズをきちんと拾ってもらいたい。 ・人々がその地域で生活していく時に、いろいろなサービスがあり、その必要性に応じて、選ぶことが出来る地域を作っていくことが大切である。 ・住民主体でサービスを作るということに際し、事業の継続性を確保することが必要であると思う。そうでないと、そのサービスを利用する人が切り捨てられる結果になってしまう。市との協議をしっかりとってもらいたい。 ・コミュニティーバスに関しても、以前から市にお願いをしている。なかなか進展しない。特に西地区は交通の問題が深刻である。 ・問題は山積しているが、できるところから始めていかななくてはならない。 ・一部の人だけの利用にならないように、いろんな地域に、色々なサロンができる必要がある。 ・市役所の全戸配布のチラシは、きれいであるが、読んでもよくわからなかった。チラシよりも市報の方が高齢者は目を通すと思う。 ・地域づくりについて市役所から直接説明があるともっとわかりやすい。 		

			<ul style="list-style-type: none">・サービスB訪問型サービスでは、利用料はどのくらいになるのか。助け合いの域であると思うが。・専門的なサービスと助け合いサービスのすみわけは今後必要になってくると思う。・高齢者の運転はコミュニティーバスの整備など環境面を整えないと解決しない。・個人情報の共有化については、基本的には本人同意がないと難しい。命に危険がある場合、虐待など緊急性が高い場合は、その限りではない。今後とも民生委員さんとは連携しながらやっていきたい。・地域包括ケアシステム構築の為、生活支援コーディネーターとしてが包括に配置された。地域の情報を共有しながら、皆様と一緒に安心して暮らせる地域づくりを行ってきたい。・8月から民生委員児童委員による75歳以上高齢者の全戸訪問が始まる。様々な問題が出てくる可能性があるので、必要時には包括も一緒に連携させて頂きたい。・介護保険や地域づくりに関する説明、認知症サポーター養成講座など地域にご説明に伺っている。いつでも包括にお声掛け頂きたい。			
4	会議種別 ・担当包括	月	検討内容	参加機関	開催結果	
	□個別課題 ■地域課題 けやきの郷	9月	<ul style="list-style-type: none">・高齢化が進む中、住み慣れた町で安心して暮らしていくために地域で何ができるのか。・地域の現状と今後の課題について、地域の方々と包括との意見交換を通し、高齢者の方を包括的に支援する体制づくり等の構築を目指す。	民生委員児童委員5名 小川橋自治会 会長 緑水自治会 会長 南台自治会 会長 さつき自治会 会長 青葉自治会 会長他1名 地域包括支援センターけやきの郷4名 社会福祉士実習生1名	<ul style="list-style-type: none">・民生児童委員や自治会長、包括職員で直接意見交換することにより、情報の共有と顔の見える関係を構築することができた。・地域包括ケアシステムや生活支援体制整備事業について説明をし、地域づくりについて貴重な意見を頂くことが出来た。・高齢者が安心して生活できる地域づくりに向けて、さらに包括と民生委員をはじめとする地域住民での協働の必要性を確認できた。	
			主な発言			
			<p>(自治会)</p> <ul style="list-style-type: none">・自分の自治会は42戸。半分以上が高齢者で独居は5人。2軒心配なところがあり、民生委員の方に伝えてサービスが入った。見守りなどしている。・自治会で、自分の親世代であり面識のない人にどこまで踏み込んで聞いていいか迷う。自分も足が悪いので何でもやりますとは言えないのがつらい。近所付き合いのない人の情報集めは難しい。最近見ないな、という人について心配になることがある。・見守りボランティアのほかに、パトロールをしている「見守り隊」が10名いる。防犯協会の関係で、詐欺のチラシ配りなどもしている。・今のところ問題は聞いていないが、高齢者が多いので認知症の方はいると思う。女性がやっている「さわらび会」や納涼祭で交流あるので声掛けするようにしている。			

		<ul style="list-style-type: none"> ・ 困難ケースの解決事例を聞けるとありがたい。自分のところには一人暮らしでゴミの出し方ができておらず、夜型の生活をしているような男性がいる。精神疾患か認知症か、デリケートな部分なので難しい。 ・ 空き家問題が気になっている。今後どうなっていくのか。トラブルがあるらしく 20 年放置されている空き家がある。どうしようもないので、自治会有志で草刈りなどしている。20 名くらい集まってくれるのでそこで地域の情報交換も行っている。 ・ 自分のところでは市に 6 年間陳情しているが、個人財産だからと変わらずやってもらえない。市の課長クラスも異動するのであてにならない。 ・ 自治会をこえて、広域で何かできないか考えている。今はゴミが共通の議題になることが多いが、ゴミが戸別収集になったらそれもなくなくなる。地域コミュニティをどうしていくのか。防災連に入るようにしたが、これからは防災という点でつながれるか。 ・ 自分のところの自治会は昔からの二つだけ。新しい自治会はなく、自治会を抜ける人もぼつぼついる。ほとんどが挨拶程度の近所付き合いで、自治会そのものの存続が危うい。続いているだけマシなのかもしれない。 ・ 昔、私道整備の 1 割負担の為に積み立てをする為に自治会が作られた。今は整備されているのでその必要も無くなったのではないかと感じている。 ・ 立川市と隣接する 5 つの自治会で連合自治会を作り、墓地建設に反対したりした。今は焼却場が平成 34 年に移転することが決まり、跡地がさら地になるのでそこに何を建てるかという話し合いに参加してきた。 <p>(民生委員児童委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 全戸訪問をするなかで外に出ている方はお元気な印象。閉じこもりの方はもちろん心配だが、自分のことはできるけど外には出ないなど中間の方も心配。デイサービスなどで機能訓練をして元気になると、介護度が変わって受けられるサービスが減るという現実がどうにかならないかと思っている。自分で通うには交通手段が不足している。 ・ 75 歳以上の方の世帯を全戸訪問している。自分のところは 219 名いる。行くと喜ばれる、ということは今まで行けていなかったということかと振り返っている。拒否されたのは 1 名、インターホンに出ない方は十数名。時期的に熱中症のチラシを持っていった。帰ろうとしても帰れないくらい話をしてくれる方も多かった。 ・ 一軒、「民生」と聞いただけで貧困とつながられ、失礼だと言われた。奥様を介して納得していただけたが、市への不満などいろいろ語られ辛かった。脊柱管狭窄症になって困った人がいたが、介護保険のことを伝えても動けるうちは申請したくないとの意向だった。 <p>(地域包括支援センター)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 気になる高齢者のことは、地域包括支援センターに連絡いただければ、皆さんと一緒に考えて対応していきます。 ・ 地域包括ケアシステム構築に向け、生活支援コーディネーターとして地域包括支援センター職員 2 名が担当する。今ある資源は何か、これから必要なものは何かなど地域の情報を共有しながら、皆様と一緒に安心して暮らせる地域づくりを行っていききたい。 ・ ボランティアポイント事業については、西の圏域では使えるところがほとんどなく、タクシー券などの方が良いとの声が上がっている。他の自治体で行っているような介護保険のサービスに利用することも今はできない。今後、改善していきたい事業だと考えている。
--	--	--

			<ul style="list-style-type: none"> ・自治会と地域包括支援センターは、今後とも顔の見えるお付き合いをお願いしたい。 ・介護保険や地域づくりに関する説明、認知症サポーター養成講座など地域にご説明に伺っている。いつでもお声掛け頂きたい。 ・今回ご意見を頂いた、自治会をこえた広域での取り組みや防災、ゴミ出しのことなど、この地域で何ができるのかこれからも考えていきたい。 		
	会議種別 ・担当包括	月	検討内容	参加機関	開催結果
5	<input type="checkbox"/> 個別課題 <input checked="" type="checkbox"/> 地域課題 中央	9月	～認知症の方が地域で暮らしていくための見守りや環境について～ ・高齢者支援に関わる団体・関係機関の代表者や、地域住民の参加による話し合いを持つことで課題を把握し、高齢者の方々が安心して暮らすことができる地域のネットワークづくりを行う。	民生委員児童委員 1 名 小川東町都営自治会 会長 地域住民 6 名 居宅介護支援事業所 1 名 東京都住宅供給公社巡回管理人 1 名 小平警察署生活安全課 1 名 高齢者支援課地域支援担当 1 名 地域包括支援センター中央センター 4 名	<ul style="list-style-type: none"> ・地域住民や関係機関と顔合わせと地域の情報共有ができた。 ・地域包括支援センターの周知と訪問時のツールとして自治会や民生委員に協力していただき、チラシを作成することとなった。 ・高齢者が増える中で安心して暮らせる地域づくりを進めていくために、地域包括支援センターと地域住民と関係機関でのさらなる協働の必要性が確認できた。 ・自治会や民生委員が関わっていないと情報が行き渡らないため、情報発信についての工夫が必要でることが確認できた。
			主な発言		
			(認知症の方が地域で生活するにあたり、困ることや課題と感じていることについて) <ul style="list-style-type: none"> ・地域の中や自治会内にも認知症の高齢者の方がいる。しかし、確実に認知症なのかどうか分からない。 ・自治会では定期的に自治会費を集金するが、人と関わりたくないためか集金や介入に拒否する世帯がある。 ・市役所や地域包括支援センターが休日の場合は、警察が道に迷っている様子の高齢者を保護することがある。保護歴がない方の場合、警察も身辺調査に時間を要することがある。 ・認知症の高齢者の方は、ゴミ出しや鍵の紛失、火の消し忘れ、新聞を複数契約する等の問題がある。特に一人暮らしの場合、生活の中の様子が分からないことが多々ある。 ・住宅供給公社では担当者が80歳以上の世帯のうち希望者に2か月に1回、安否確認を目的に巡回をしている。 (明日から自分たちが実践できることについて) <ul style="list-style-type: none"> ・顔の見える関係や相談できる関係づくり ・ちょっとしたおせっかいが重要 ・支え合いや見守りの目を増やす（孤立している人を増やさない、1人で頑張らない） ・訪問時のツールの工夫 		

			<ul style="list-style-type: none"> ・何か気がかりな高齢者の方がいた場合、担当地域の民生委員や地域包括支援センターに連絡する（都営の場合は住宅供給公社のお客センターへ連絡する） ・安心して住み続けられる地域づくりのためには、関係者とのネットワークの構築が大切である。何か気がかりなことがあった際には、地域包括支援センター等に連絡してほしい。 ・訪問時のツールとして、簡易的な地域包括支援センターのチラシの作成が必要。 ・認知症サポーター養成講座や出張相談会等の情報発信については、積極的に地域住民に行っていく。 		
6	会議種別 ・担当包括	月	検討内容	参加機関	開催結果
	<input type="checkbox"/> 個別課題 <input checked="" type="checkbox"/> 地域課題 多摩済生 ケアセンタ ー 小平健成苑	10 月	～地域の皆さんが活躍し、支え合える地域づくりを考える～ ・参加者がゲストの講演を踏まえ、グループに分かれて意見交換をすることで、多団体との関係づくりにつなげる。 ・「地域の人、地域の人を支えるまちづくり」必要性について理解を深め、今後の自身の活動に活かしてもらう。	富士見住宅自治会 1 名、嘉悦大学教員 1 名 小平福祉園 2 名、民生委員児童委員 7 名 自治会長等 7 名、見守りボランティア 7 名 サロン運営者 4 名、通所介護事業所職員 1 名 居宅介護支援事業所職員 1 名 クリニック看護師 1 名 特別養護老人ホーム職員 1 名 介護老人保健施設職員 1 名 有料老人ホーム職員 2 名 小平市高齢者支援課 1 名 小平社会福祉協議会 1 名 地域包括支援センター中央センター 3 名 地域包括支援センター多摩済生ケアセンター 3 名 地域包括支援センター小平健成苑 2 名 社会福祉士実習生 2 名	<ul style="list-style-type: none"> ・お住まいの地域によって「一戸建てが多く団地のような結束力が低い」「新しい住民との交流が薄い」「集まる場所や交通手段がない」等の異なる地域課題が確認された。 ・参加者が、それぞれの活動の紹介し、意見を出し合うことで、顔の見える関係が広がり。自身の活動の振り返りとなった。 ・参加者アンケートから「意見交換する時間が十分に持てなかった」「もっと皆さんの話を聞き、地域づくりについて考えたい」という意見が多かったことから、今後はより小地域での継続的な勉強会開催について、参加者の意向を聞きながらの検討の必要性が確認できた。
			内容と主な意見 <ul style="list-style-type: none"> ・小平市高齢者支援課、小平健成苑生活支援コーディネーター、富士見住宅自治会長、嘉悦大学地域連携委員長、小平福祉園施設長の講演を聞いた後、地区ごと 5 グループに別れ意見交換会を行った。 ・「顔の見える関係ができ、年齢に関係なくつながり、気軽に会話できるような『他世代が安全・安心に支え合う地域』になったらいい。そのために、今それぞれがしている活動や思いについて情報共有できる機会がもっとあるとよい」という意見が多く出された。 		
7	会議種別 ・担当包括	月	検討内容	参加機関	開催結果

<input type="checkbox"/> 個別課題 <input checked="" type="checkbox"/> 地域課題 けやきの郷	11月	<ul style="list-style-type: none"> ・1小南地区にて高齢化が進む中、住み慣れた町で安心して暮らしていくために地域で何ができるのか。 ・地域の現状と今後の課題について、地域の方々と包括との意見交換を通し、高齢者の方を包括的に支援する体制づくり等の構築を目指し、開催する。 	民生委員児童委員5名 鷹の団地小平地区自治会1名 協和会自治会1名 たかの台自治会1名 地域包括支援センターけやきの郷3名	<ul style="list-style-type: none"> ・民生委員や自治会長、包括職員で直接意見交換することにより、情報の共有と顔の見える関係を構築することができた。 ・地域包括ケアシステムや生活支援体制整備事業について説明をし、地域づくりについて貴重な意見を頂くことが出来た。
		主な発言		
		<p>(民生委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年12月の一斉改正で、民生委員の担当の地域が変わった。 ・今年の8月の終わりから10月半ばにかけ、75歳以上の高齢者のお宅を訪問した。ご夫婦もいるので250名程になる。 ・生活支援体制整備事業における2層協議体の主体は住民であるとのことあるが、協議体はとても重い責任であるし、住民に丸投げすることのないようにしていただきたい。 ・白梅学園は先行して地域づくりを行っているが、そのような中でもなかなか市民の皆さんに地域づくりの話をしても通じないと普段の活動から感じている。 ・けやきかふえに参加したいが、足がなくて困っている。コミタクが早く通るとよいと思っている。 ・見守りボランティアからの通報は、月に何件あるのか。 ・いつまでも安心して暮らせる街づくりを実現する為には、高齢者や子ども、障害など縦割りで対応するのではなく、共生社会を目指し常日頃から連携していく必要がある。 ・地域づくり勉強会は、さあ集まって下さいといってもなかなか集まらないので、強烈なリーダーシップがないと難しいのではないかな。 ・自治会長などの参加が少なく、民生委員ばかりの出席では地域ケア会議を開催した意味がないのではないかな。第2層の協議会を作るという発言を聞いたので、数人の民生委員・数人の自治会長だけでは協議体は出来ないと思う。 ・居場所に行くまでの足がない。そういう場所に行って欲しい人はたくさんいる。 ・居場所を作っても、継続していかなくてはならない。利用者さんも固定してきてしまうし、ボランティアも高齢化していく。ここに問題があると思う。 ・働き盛りの世代は自分の生活で精一杯の人が多い。 ・ボランティアといっても、報酬があると人が集まるのではないかな。 ・白梅学園大学がいろいろとシンポジウム等催し物を行っている。先進事例の紹介などを行っている。そういうことをこの会議で行ったらよいのではないかな。 		

			<p>(自治会)</p> <ul style="list-style-type: none">生活支援体制整備事業の第2層協議体について、これからどのくらいの頻度で行っていくのか。→今後勉強会などを経て、人選、頻度等が決定していくことになっている。協議会で協議することは、ひとつの方法として、「さつき」のような居場所を増やしていくことだろうと思う。それをどのように取り組んでいくのか。皆やる気がないように感じる。自治会長に会議内容をお知らせした方がよいのではないか。自治会長にも郵送するなどして周知を図った方が今後の地域ケア会議の参加に繋がるのではないか。自治会そのものの存続が危うい。続いているだけましなのかもしれない。今回は初めて自治会として地域ケア会議に出席した。今後も民生委員さんを始め横のつながりを大切にしたいと自治会長とも話をしている。 <p>(けやきの郷)</p> <ul style="list-style-type: none">来年の介護報酬の改定で、デイサービスの報酬が下がるのではないかという話がある。行政でまかなえる範囲がどんどん狭くなっている。来年度の改定は医療保険も同時改定である。そのためにもボランティア強化が重要になってくる。今後とも地域の皆さんのお知恵やお力をお借りして、生活体制整備事業を行って行きたい。包括は民生委員さんとは連携を取らせていただいているが、自治会や自治会のない地域の方との顔の見える関係がまだまだ不足していると感じている。今後、課題としていきたい。		
	会議種別 ・担当包括	月	検討内容	参加機関	開催結果
8	<input type="checkbox"/> 個別課題 <input checked="" type="checkbox"/> 地域課題 けやきの郷	2月	「住み慣れた町で自分らしく暮らすために、認知症になっても住み慣れた地域での生活を継続していくために地域で何ができるのか」 地域の現状と今後の取り組みについて、地域の方々と包括との意見交換を通し、地域で認知症の方を包括的に支援する体制づくり等の構築を目指し、開催する。	民生委員児童委員 2名 地域包括支援センターけやきの郷 3名	<ul style="list-style-type: none">少人数であったため、じっくりとお話を聞けることが出来た。担当圏域の現状を相互に情報共有が出来た。今後も、民生委員・包括と協同していきながら、認知症高齢者をはじめとする独居・高齢者のみ世帯などを支援していくことを確認できた。
			主な発言		

			<ul style="list-style-type: none">・地域で高齢者や認知症の人が増えているように感じている。・地域の方に民生委員と認識されるまでに 3 年ほどかかった。何もない状態のところからつながりを作るには時間がかかる。怪訝な顔をされると辛い。民生委員にならない方が良かったかなと思ってしまうこともある・高齢者はこの間まで大丈夫と思っていたても、2、3 週間後には様子が変わっていることがあるので注意が必要。・近所付き合いがうまくいっていない人がいるが、本当は寂しいと感じている。包括のオレンジカフェなどの行事や地域の行事を紹介して、少しでも話す機会が持てるように声掛けしている。近所付き合いがうまくいっている人は人の目があるので安心。・コミュニティを作ることが大切であるとは頭では理解しているが作っていくことは難しい。うまくいかなかった例から学ぶことがたくさんあると思う。コミュニティを作ること、地域を作っていくことは時間がかかることですぐにはできないことだと思う・個人情報の弊害を感じている。助け合いを広げたいと思うがどこまでどうやって近づくのか考えることがある。・包括支援センターとしては、民生委員や自治会の皆さまからの情報はとてもありがたい。民生委員の皆さま方と連携していくことで地域のあり方が変わってくるのではないかと感じている。・今後、地域包括支援センターの役割は益々大きくなることが理解できた。・現在、協議体を立ち上げるべく地域支え合い交流会を行っている。民生委員や見守りボランティア、住民の方など大勢の方に参加していただき、皆様の地域の支え合いへの関心の高さを感じている。・介護保険法に定められている通り、けやきの郷圏域を 5 グループに分け 2 ヶ月に一度皆様とともに地域包括ケアシステム構築に向け地域ケア会議を開催している。認知症サポーター養成講座も開催しており、地域に出向く出張講座も可能である。今後とも、個人的に心配な方やその他お気づきになった点を包括支援センターへお寄せいただきたい。・オレンジカフェである「けやきかふえ」を毎月第 4 木曜日に開催している。認知症の方とその家族が、地域の方と一緒に楽しい時間を過ごしなが、認知症に関する相談を受け付ける機能を持った、地域に根ざしたカフェを目指している。地域の皆様にもお知らせ頂けるよう、ご協力をお願いしたい。その他、新緑の会や紫陽花の会、各種講座など幅広く今後も、講座等を予定しているのでご協力をお願いしたい。		
9	会議種別 ・担当包括	月	検討内容	参加機関	開催結果

<input type="checkbox"/> 個別課題 <input checked="" type="checkbox"/> 地域課題 中央センター	3月	<p>～いつまでも地域の人と支え合って暮らしていくために“こんなところがあったらいいな”と思う集える場所について考える～高齢者支援に関わる団体・関係機関の代表者や、地域住民の参加による話し合いを持つことで課題を把握し、高齢者の方々が安心して暮らすことができるネットワークや地域づくりを行う。</p>	<p>民生委員児童委員 3 名 地域住民 3 名 通所介護事業所 4 名 高齢者支援課 1 名 中央公民館 1 名 地域包括支援センター中央センター 5 名</p>	<p>・地域住民や関係機関と顔合わせと地域の情報交換ができた。</p> <p>・居場所やサロンについて、参加者のイメージを共有することができた。</p> <p>・高齢者が増える中で安心して暮らせる地域づくりを進めていくために、地域包括支援センターと地域住民と関係機関でさらに協働していく必要性の確認。</p>
		主な発言		
		<p>「中央センター圏域とは、どのような地域か？」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交通の便が良く、公共施設が多く便利である。 ・畑が宅地開発されてマンションやアパートが増え、若い人も増えた。 ・自治会はある所とない所がある。 ・中央公民館のサークルは1, 0 0 0以上ある。 ・小川町2丁目地域センターは、活用することができないだろうか。 ・公共施設は居場所に適していると思うが、公共施設まで行く手段がない。 ・場所さえ見つければ、居場所を手伝ってくれる知人はいる。 <p>「実際にこの地域で居場所を立ち上げるとしたら…」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・具体的にどのような物や手段が必要でしょうか？②皆さん、それぞれ、どのような役割が担えますか？ ・公民館は、原則、午前か午後のみしか貸し出していない。1日使用する場合は、社協から借用依頼を行う必要がある。 ・デイサービスは土日休みのところが多い。デイサービスが休みの日を借りて居場所やサロンを実施できないだろうか。 ・最近では、薬局でもお茶のみカフェを実施している。公共施設の他にも、会場を貸してもらえるところがないだろうか。 ・新たな居場所を立ち上げることは、負担がすごく大きい。そのため、既存の居場所をさらに充実させていくのはどうか。 ・小川町2丁目地域センターは児童館が併設されているので、世代間交流も目的とするのであれば、会場として良いと思う。 ・居場所運営のお手伝いならできると思う。人材や場所の課題を解決していくことが必要だと思う。自宅を提供してくれる人は少ないと思うので、まずは公共施設にて実施していくのが良いと思う。 		

			<ul style="list-style-type: none"> ・地域づくりや居場所づくりは、地域包括ケアシステム構築のために重要な役割を担っている。一足飛びに実現するものではないが、より具体的な話合いができるよう今後も継続して、このような地域ケア会議を実施していく。 ・地域住民が主体的となる居場所づくりが実現できるよう今後は、社協の地域福祉コーディネーターとも連携していきたい。 ・また適宜、居場所づくりに関する情報が入手できれば、中央センター内で共有を図っていきたい。 		
	会議種別 ・担当包括	月	検討内容	参加機関	開催結果
10	<input type="checkbox"/> 個別課題 <input checked="" type="checkbox"/> 地域課題 多摩済生 ケアセンタ ー	3月	大沼団地に住んでいる方の困りごととは何かを共有し、今後どのような仕組みがあればよいのかを検討していくために開催する。	大沼団地住民17名 地域包括支援センター多摩済生ケアセンター2名 地域包括支援センター小平健成苑1名	<ul style="list-style-type: none"> ・他の困りごとの有無の確認や、手伝ってくれる人や、技術を持っている人を探すため、再度同様の内容で開催してもいいのではないかな。曜日、時間は変更、土曜や日曜でもいいのでもう一度開催することが必要。 ・大沼団地という名称では、大沼団地自治会のことを考えるのと勘違いする人が多いと思われるため、大沼町1丁目アパートに変更したらどうか。 ・回収できていないアンケート結果や、今回出た意見を次回の各自治会の会長、副会長に伝え、次回開催につなげていくことも必要。
			主な発言		
			<p>事前に行ったアンケートで多かった①掃除・洗濯・買い物②ゴミ出し・電球交換など③体操やおしゃべりできる場所がない④見守り・安否確認をしてほしい⑤その他の5点について、具体的にどう困っているか、どういう仕組みがあったらいいか、意見を共有した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ぶるべー号を土日も走らせてほしい。 ・小平駅前まで行ってほしい。 ・電球交換などができるチームを作ってほしい（事故時の保険などの仕組みも含め） ・1日1回安否確認してくれる人がいたらいい。→顔見知りになればできるか。黄色いハンカチのように、何か目印になるものを表に出しておけば、状況がわかるか。 ・スーパーがほしい、移動スーパーが来ればいい。 ・動く市役所に来てほしい。 		

			<ul style="list-style-type: none"> ・役に立ちたいと思っている人や技術を持った人を探す。誰かのために役に立つことは、自身の元気につながる。 ・普段から顔見知りになるために、集まれる場所があるといい。一人ぼっちにならないようにしないといけない。
--	--	--	--

開催回数 10 回 （他圏域による合同開催 2 回）

平成 29 年度 小平市 個別型地域ケア会議 （年間）実績報告

開催回数 22 回